

# ディスカバリーサービスの実証実験結果について

平成 30 年 4 月  
京都府立図書館

## 1. 目的

大学図書館で導入が進んでいるディスカバリーサービスの公共図書館への導入について実証実験を行い、利用状況や本格導入に向けた課題等を検証する。

## 2. 実施期間

- ・平成 29 年 7 月 28 日（金）～平成 30 年 1 月 24 日（水）（約 6 ヶ月間）
- ・平成 29 年 9 月 20 日（水）～平成 30 年 1 月 24 日（水）（約 4 ヶ月間）は館外からの利用も可能とした

## 3. 利用したサービス

EBSCO Discovery Service

○EBSCO Information Services Japan(株)と(株)図書館流通センターが共同で提供する公共図書館向けトライアルを利用

## 4. 利用状況

府立図書館内からのアクセス

- ・利用件数 : 1,067 件（178 件/月）
- ・詳細画面閲覧数 : 1,337 件（223 件/月）

府立図書館外からのアクセス

- ・利用件数 : 1,513 件（378 件/月）
- ・詳細画面閲覧数 : 896 件（224 件/月）

○利用件数 : EBSCO Discovery Service トップ画面にアクセスした回数

○詳細画面閲覧数 : EBSCO Discovery Service の検索結果から詳細画面を開いた回数

データベースによりカウント方法が異なるため単純比較はできないが、府立図書館が契約しているデータベースの同時期の利用件数（月平均・館内からのアクセスのみ）は以下のとおりであり、一定の利用があったと評価できる。

- ・ざっさくプラス 178 件/月（検案件数）
- ・日経 BP 記事検索サービス 140 件/月（記事閲覧件数）

## 5. 実証実験の成果

ディスカバリーサービスの一番の特徴である、複数のデータベースサービスを横断的

に検索できることに関しては、「便利である。」「効率的な資料・情報の収集ができる。」との意見・感想があった。

府立図書館では、13種類の有料データベースを利用者に提供しているが、データベース毎に検索する必要があり、また一部のデータベースを除いてWeb上のオープンアクセスの論文等は別途検索する必要がある。このことから、『京都府立図書館基本方針』において「府民の知的活動の拠点となる」ことを謳っている、府立図書館へのディスカバリーサービス導入は一定のニーズがあり、有用であるとの成果を得られたと評価できる。

特に、新聞雑誌記事・論文等の情報を横断的に検索でき、本文にも直接アクセスできる点が、効果的であると考えられる。

## 6. 今後の課題

### (1) 府立図書館の館内利用

府立図書館内での利用における課題は、次のものがある。

- ・ 検索結果で表示された論文等が「端末から直接アクセスできるのか。」「館内で紙媒体資料にアクセスできるのか。」「別途取り寄せ等が必要なのか。」分かりにくい。  
(文献情報データベースと共通の課題でもある。)

これは、自宅から利用して「府立図書館に行けば閲覧できる。」という誤解をされる方もおり、市町村図書館等の職員からも分かりにくいとの指摘があった。検索結果の表示をはじめ、ディスカバリーサービスのインターフェイス全般に、一層の工夫が必要と考える。

- ・ 著作権法の規定から「Web上の論文等については特段の明示がない限り、利用者にプリントアウトして提供することができない。」と解することが一般的であり、府立図書館ではプリントアウトの提供は行っていない。(府立図書館で契約しているデータベースの場合、プリントアウトの提供を認める契約内容になっていることが一般的である。)

このため、端末から論文等に直接アクセスできた場合でも、プリントアウトの提供ができるものとできないものが混在しており、利用者に分かりにくい状態になっている。

### (2) 市町村図書館を通じたサービス提供の可能性

府立図書館では『京都府立図書館基本方針』において「府内全域に均質な図書館サービスを提供する」と謳っており、本実証実験でも「府内市町村図書館等を通じたサービス提供の可能性」「非来館サービスの充実」を意識し、市町村図書館等へのアンケートを実施することにより課題の洗い出しと検証を行った。その結果は次のとおりである。

- ・ システム上の一番の課題は、固定IPアドレスの有無である。

市町村図書館等では、図書館独自の固定 IP アドレスを持っていない館も多い。ディスカバリーサービスでは IP 認証が前提となっているが、これに代わる方法を検討する必要がある。

- ・市町村図書館等のアンケート結果から、またディスカバリーサービスの特性からも、搭載されている有料データベースをあわせて契約していなければ、導入効果は薄いと判断している。

特に、各種データベースの中でも新聞記事データベースに対するニーズが高いとみられることから、サービスを展開するためには、新聞記事データベースを中心に、有料データベース利用の環境整備をセットで行う必要があると考える。

- ・現在府立図書館で利用できるデータベースは、プリントアウトの提供ができるが、来館者に限られる契約となっている。(一般的にこのような契約になっている。)このため、市町村図書館等経由のレファレンス依頼で、府立図書館がデータベース検索を行い解決した場合でも、プリントアウトの「郵送複写」対応ができない。ディスカバリーサービスとセットとしたデータベース利用の環境整備においては、この点も改善する必要がある。
- ・導入にあたって、特に利用者が直接利用できるようにしたり、プリントアウトの提供をしたりするためには、各館での機材の整備を伴うことにも留意する必要がある。
- ・実証実験では蔵書検索が含まれておらず、本格導入する際に調整することとなるが、市町村図書館等を通じたサービスを追求するためには、「京都府図書館総合目録 (K-Libnet 総合目録)」が検索できるようにする必要があると考える。

あわせて、市町村図書館等においては、求めている情報と検索結果とのレベルの違いを指摘する意見があった。この点については、府立図書館職員もどのような場面で利用すれば効果的な結果が得られるか、模索しながらの実証実験であった。

これらの課題を踏まえ、府立図書館への導入の是非や市町村図書館等通じたサービス提供の可能性やサービス (ディスカバリーサービス・データベース) 提供会社への働きかけを引き続き検討する必要がある。

○『京都府立図書館基本方針』(平成 28 年 3 月 30 日公表)

「京都府立図書館サービス計画 (平成 28 年度～平成 32 年度)」

[https://www.library.pref.kyoto.jp/?page\\_id=5792](https://www.library.pref.kyoto.jp/?page_id=5792) 参照

## 【参考】

府内市町村図書館・読書施設からのディスカバリーサービスの実証実験に対する意見等

### 【利用しての感想・意見等】

- ・たくさんのデータベースを一度に調べられるので、便利だと思う。使いこなすことができれば、レファレンスの幅も広がると考えられる。
- ・個人が使う場合には、検索したい記事や語句がデータベースでヒットするという事実が分かるだけで、最終的には図書館に行かなくてはならないように見受けられる。使い方などの案内が必要になると考えられる。
- ・雑誌の記事を探すために利用した。内容は閲覧できないものの、目次が検索できるのはとても便利で活用させていただいた。また、検索画面もどのデータベースから検索するか絞り込めて使いやすかった。
- ・利用者からの質問内容によると思うが、小規模施設では、身近な問題で実際に手にとれる資料や情報を求められることが多いので、検索して出てきた結果に対して、あまり意味がなかったということがあった。でもより多くの情報が得られるということは、ありがたい。
- ・何度か利用してみたが、利用した内容についてはヒットしなかったので、利便性は感じられなかった。
- ・キーワードで、多岐にわたる情報を見ることができ、大変便利。
- ・以前新聞記事で曖昧な問い合わせがあったが、その際にこのサービスがあれば活用できたと思われる。
- ・過去の新聞記事を検索するときには便利に使える。
- ・小規模施設では有料データベースの導入が難しく、今回のようなサービスが利用できる機会を設けて頂けるのはとてもありがたい。

### 【OPAC への検索について】

- ・府立の WEBOPAC や横断検索とは別になっているため、ディスカバリーサービスで検索して、図書がヒットした場合、もう一度検索する必要がある。
- ・検索結果などから府立図書館 OPAC（もしくは K-Libnet(総合目録)）へ直接飛べるとよい。

### 【有料データベースへのアクセスの課題】

- ・有料データベースなのかオープンアクセスなのか、一目で分からないため、外部からのアクセスではどうすれば求める情報が手に入るのか分かりづらい。「発見」した後、どうすればいいのか見づらい。
- ・記事詳細などを開くと「図書館外から利用の場合は一部制限があります。」とポップアップが表示されるが、リンクをクリックするとトップページに出る。リンク先をどのような制限があるのか解説したページにするか、解説をポップアップに記載し、リンクは無くした方がよい。
- ・蔵書確認には便利だが、有料データベースは府立でしか見られないということが少し不完全燃焼みたいな感じになる。
- ・府立図書館に行けば、検索結果から表示される論文等はすべて閲覧・印刷できるのが、疑問に感じた。